

## Ⅱ 目黒区の自殺の状況

- 1 自殺実態の分析について
- 2 目黒区の自殺の状況



## 1 自殺実態の分析について

本計画では、厚生労働省の「人口動態統計」と警察庁の「自殺統計」の2種類を用いています。なお、両者の統計には以下のような違いがあります。

### 厚生労働省の「人口動態統計」

- ◆ 調査対象  
日本における日本人（外国人は含まない）を対象としています。
- ◆ 調査時点  
住所地を基に死亡時点で計上しています。
- ◆ 自殺者数の計上方法  
自殺、他殺あるいは事故死のいずれか不明の時は自殺以外で処理しており、死亡診断書等について作成者から自殺の旨の訂正報告がない場合は、自殺に計上していません。

### 警察庁の「自殺統計」

- ◆ 調査対象  
総人口（日本における外国人も含む）を対象としています。
- ◆ 調査時点  
発見地を基に自殺死体発見時点（正確には認知）で計上しています。
- ◆ 自殺者数の計上方法  
捜査等により自殺であると判明した時点で計上しています。

### 統計データの留意点

- 1 「自殺死亡率」は、人口10万人当たりの自殺者数を表しています。
- 2 「%」は、それぞれの割合を小数点第2位で四捨五入して算出しています。そのため、すべての割合を合計しても100%にならないことがあります。

## 2 目黒区の自殺の状況

### (1) 自殺者数と自殺死亡率の推移

本区の自殺者数は、概ね40人前後で推移しており、2016年（平成28年）は38人となっています。

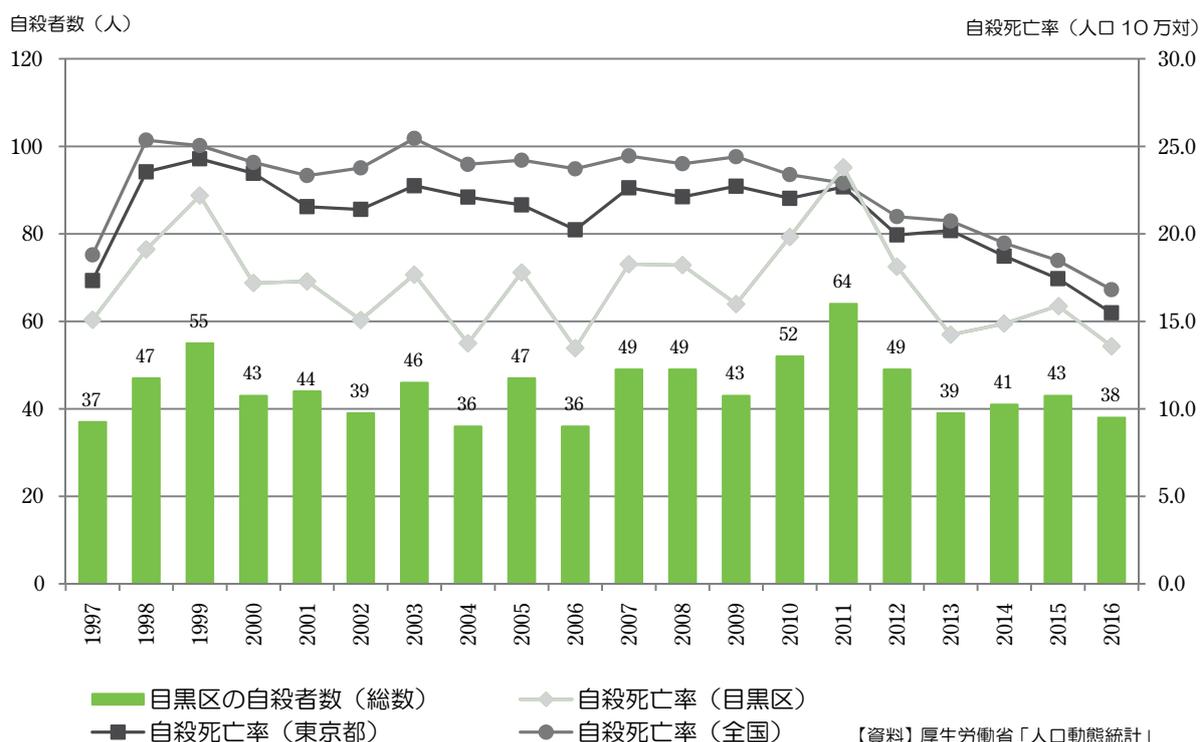
また、自殺死亡率は年によって変動がありますが、全国、東京都と比べ低い傾向にあり、2016年（平成28年）は13.6となっています。

【表1】自殺者数及び自殺死亡率の推移（全国・東京都・目黒区）

	全国		東京都		目黒区	
	自殺者数 (人)	自殺死亡率 (人口10万対)	自殺者数 (人)	自殺死亡率 (人口10万対)	自殺者数 (人)	自殺死亡率 (人口10万対)
2007	30,827	24.4	2,826	22.6	49	18.3
2008	30,229	24.0	2,776	22.1	49	18.2
2009	30,707	24.4	2,862	22.7	43	16.0
2010	29,554	23.4	2,827	22.0	52	19.8
2011	28,896	22.9	2,919	22.7	64	23.8
2012	26,433	21.0	2,575	19.9	49	18.1
2013	26,063	20.7	2,620	20.2	39	14.2
2014	24,417	19.5	2,443	18.7	41	14.9
2015	23,152	18.5	2,290	17.4	43	15.9
2016	21,017	16.8	2,045	15.5	38	13.6

【資料】厚生労働省「人口動態統計」

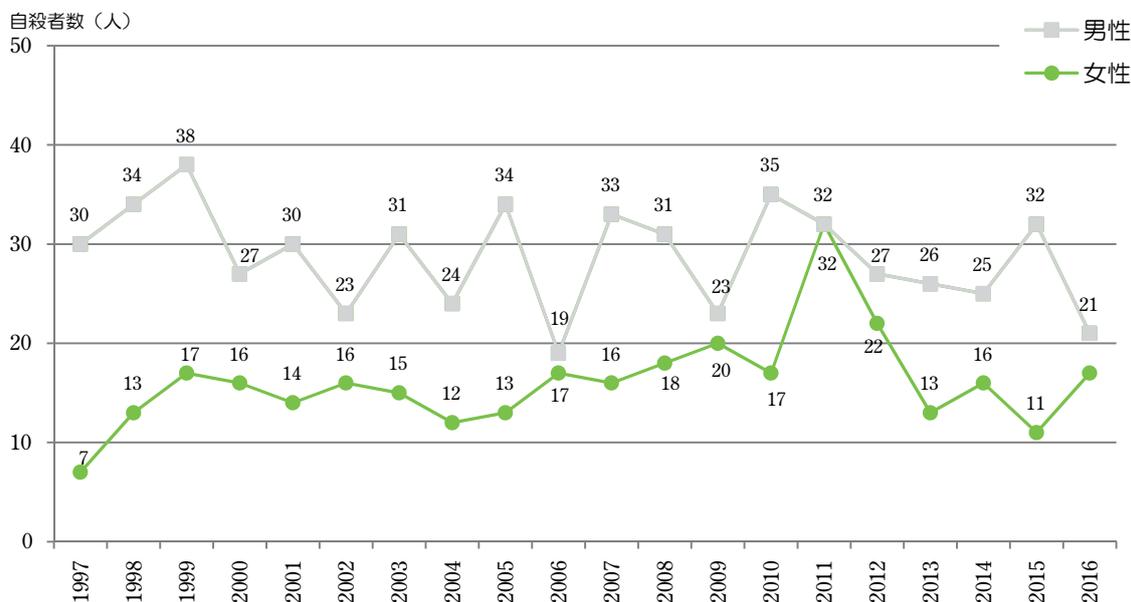
【図1】自殺者数（目黒区）と自殺死亡率（全国・東京都・目黒区）の推移



## (2) 男女別自殺者数の推移

本区における20年間の男女別自殺者数の推移をみると、2011年（平成23年）を除き、一貫して男性が女性よりも多くなっています。

【図2】男女別自殺者数の推移（目黒区）

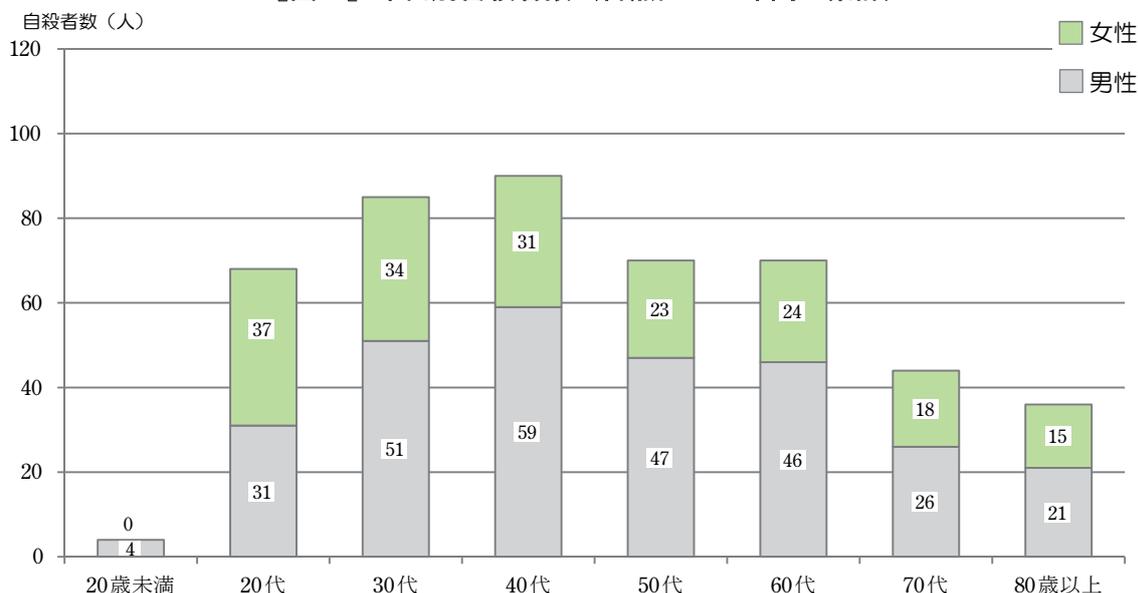


【資料】厚生労働省「人口動態統計」

## (3) 年代別自殺者数

2007年（平成19年）から2016年（平成28年）までの10年間の自殺者の累計を年代別にみると、男性は30代から60代で多く、女性は20代から40代で多くなっています。

【図3】年代別自殺者数（目黒区／10年間の累計）



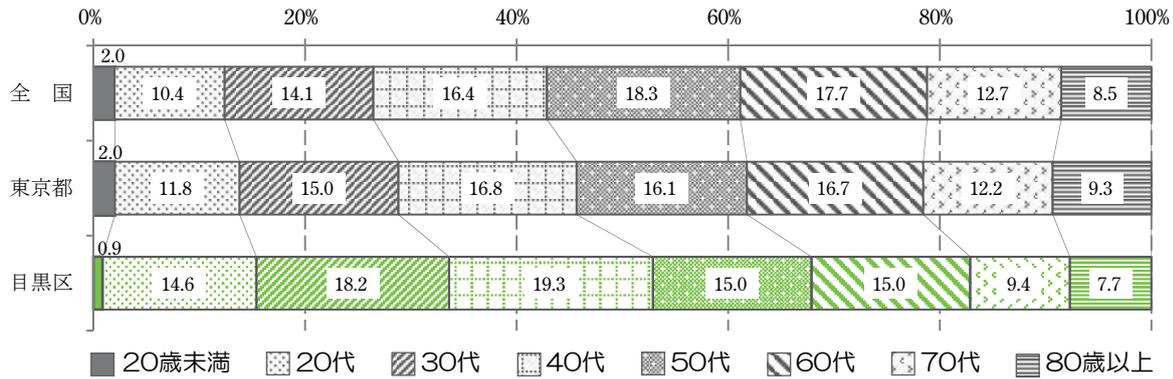
【資料】厚生労働省「人口動態統計」

#### (4) 自殺者の年齢構成

2007年（平成19年）から2016年（平成28年）までの10年間の累計で自殺者の年齢構成をみると、全国、東京都と比べ、20代から40代の働き盛り世代で高くなっています。

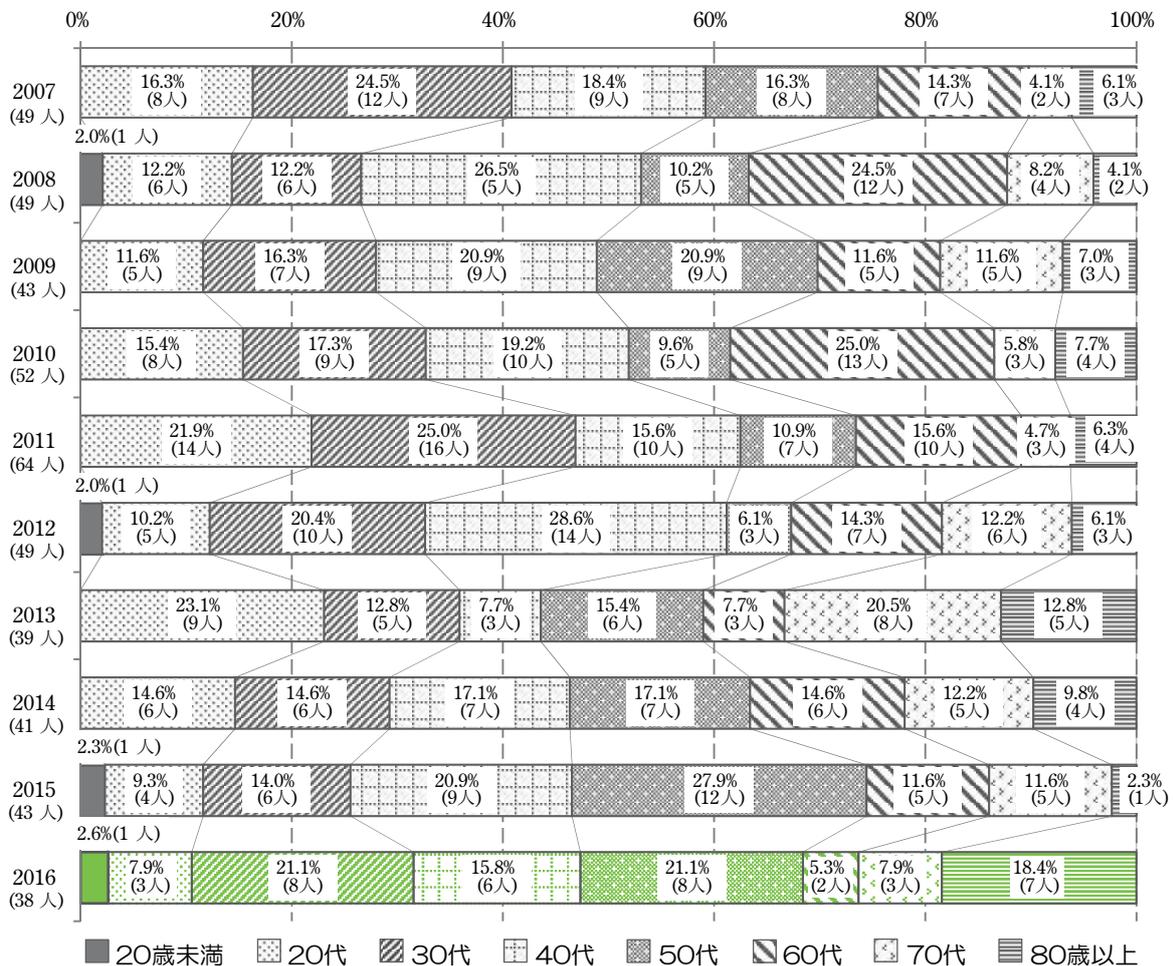
また、本区における自殺者の年齢構成の推移をみると、年によって変動はありますが、20代から40代で全体の5割から6割を占めています。

【図4】自殺者の年齢構成（全国・東京都・目黒区／10年間の累計）



【資料】厚生労働省「人口動態統計」

【図5】自殺者の年齢構成の推移（目黒区）



【資料】厚生労働省「人口動態統計」

## (5) 年代別死因

2016年（平成28年）の年代別の死因をみると、20代の死因の第1位は「自殺」となっています。

【表2】2016年（平成28年）の年代別死因（目黒区）

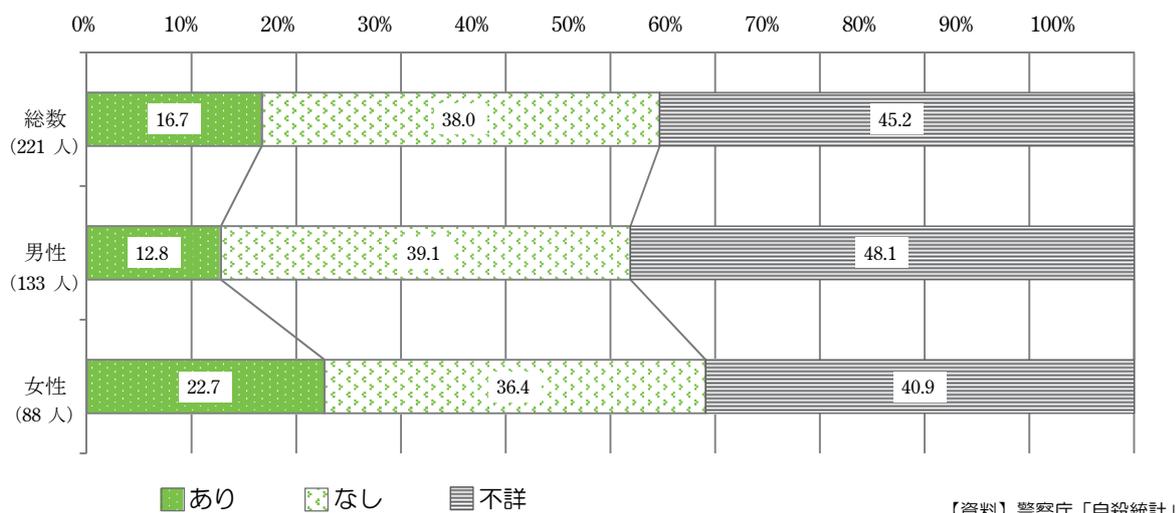
	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
<b>1位</b>	その他の死因	自殺	悪性新生物	悪性新生物	悪性新生物	悪性新生物	悪性新生物	悪性新生物
割合 (人数)	50.0% (4人)	50.0% (3人)	40.9% (9人)	48.6% (18人)	48.9% (45人)	38.8% (69人)	42.6% (141人)	22.1% (283人)
<b>2位</b>	悪性新生物	不慮の事故	自殺	自殺	その他の死因	その他の死因	その他の死因	その他の死因
割合 (人数)	25.0% (2人)	33.3% (2人)	36.4% (8人)	16.2% (6人)	14.1% (13人)	19.7% (35人)	21.1% (70人)	21.0% (269人)
<b>3位</b>	自殺・肺炎	その他の死因	不慮の事故	脳血管疾患・肝疾患	脳血管疾患	心疾患	心疾患	心疾患
割合 (人数)	12.5% (1人)	16.7% (1人)	9.1% (2人)	8.1% (3人)	9.8% (9人)	15.2% (27人)	14.5% (48人)	17.7% (226人)
<b>4位</b>			脳血管疾患・大動脈瘤及び解離・肝疾患	—	自殺	脳血管疾患	脳血管疾患	老衰
割合 (人数)			4.5% (1人)	—	8.7% (8人)	7.3% (13人)	7.9% (26人)	11.6% (148人)
<b>5位</b>				心疾患・不慮の事故・その他の死因	心疾患	肺炎	肺炎	肺炎
割合 (人数)				5.4% (2人)	6.5% (6人)	3.9% (7人)	3.6% (12人)	9.1% (117人)

【資料】厚生労働省「人口動態統計」

## (6) 自殺者の自殺未遂歴の状況

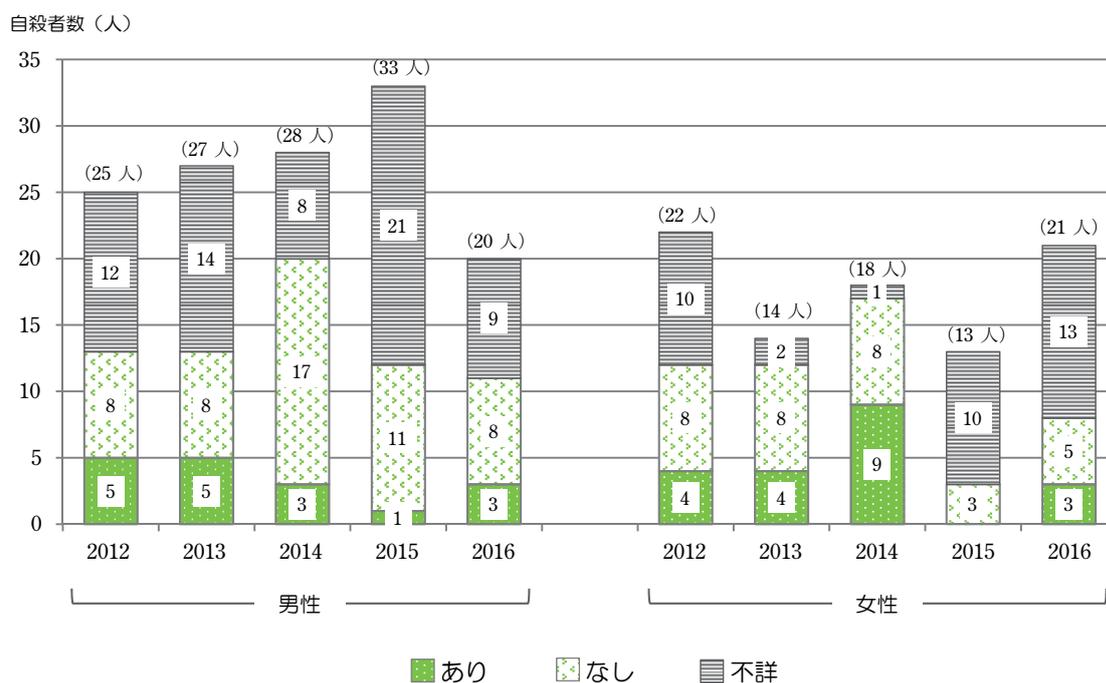
2012年（平成24年）から2016年（平成28年）までの5年間の累計で自殺者の自殺未遂歴の有無をみると、自殺未遂歴がある者は全体の2割弱です。性別が判明している中では、男性よりも女性の方が自殺未遂歴がある者が多くなっています。

【図6】自殺未遂歴の有無（目黒区／5年間の累計）



過去5年間の推移をみると、年によって変動はありますが、2015年（平成27年）の女性を除いて、自殺未遂歴がある者が一定人数いることがわかります。

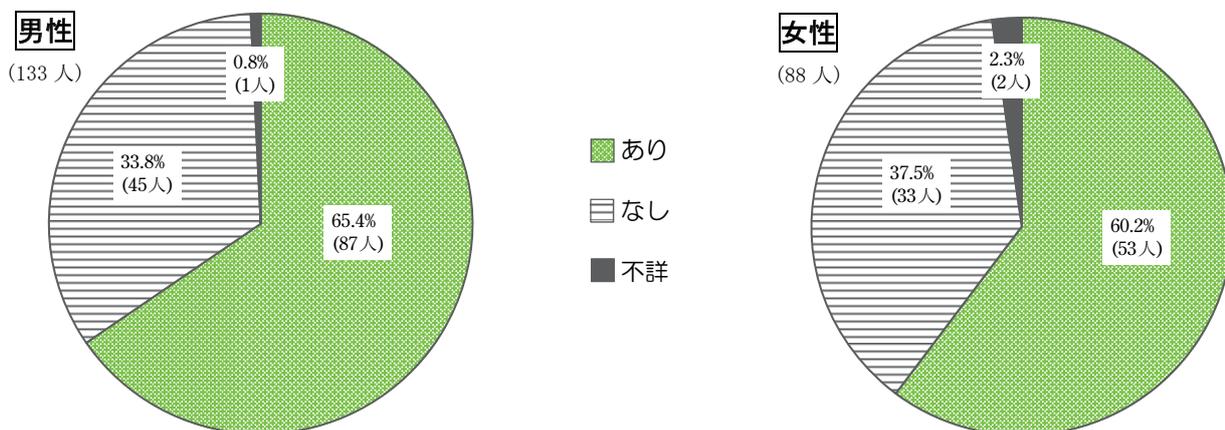
【図7】自殺未遂歴の有無の推移（目黒区）



## (7) 自殺者の生活状況

自殺者の生活状況について、2012年（平成24年）から2016年（平成28年）の5年間の累計で同居人の有無をみると、男女ともに約6割は同居人ありとなっています。

【図8】自殺者の性別にみた同居人の有無（目黒区／5年間の累計）

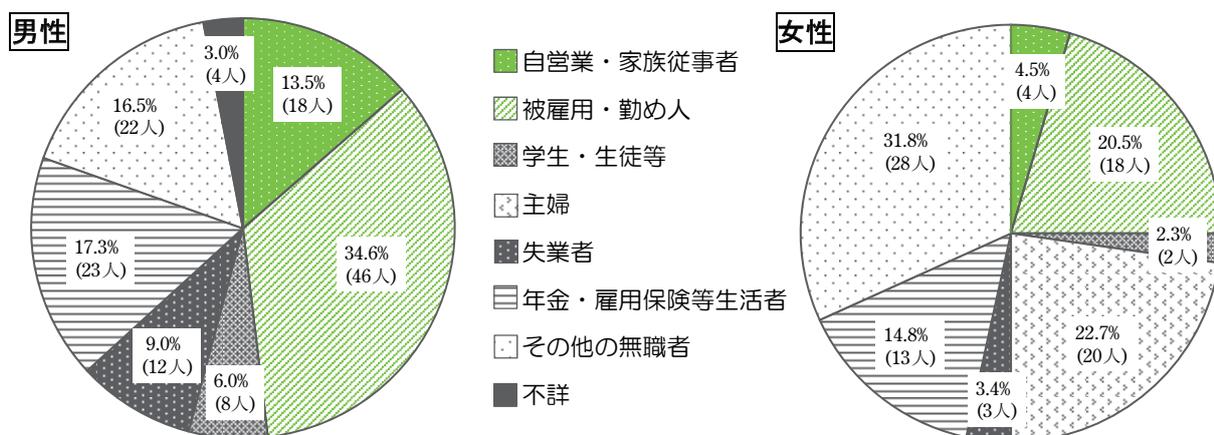


【資料】警察庁「自殺統計」

同じく5年間の累計で有職者と無職者の比率をみると、男性がほぼ半々（有職者48.1%、無職者48.9%）、女性は無職者が有職者の3倍（有職者25.0%、無職者は75.0%）となっています。

また、男性は「被雇用・勤め人」が最も多く、女性は「その他無職」が多くなっています。

【図9】自殺者の性別にみた有職者・無職者の割合とその内訳（目黒区／5年間の累計）



有職者	無職者
48.1% (64人)	48.9% (65人)

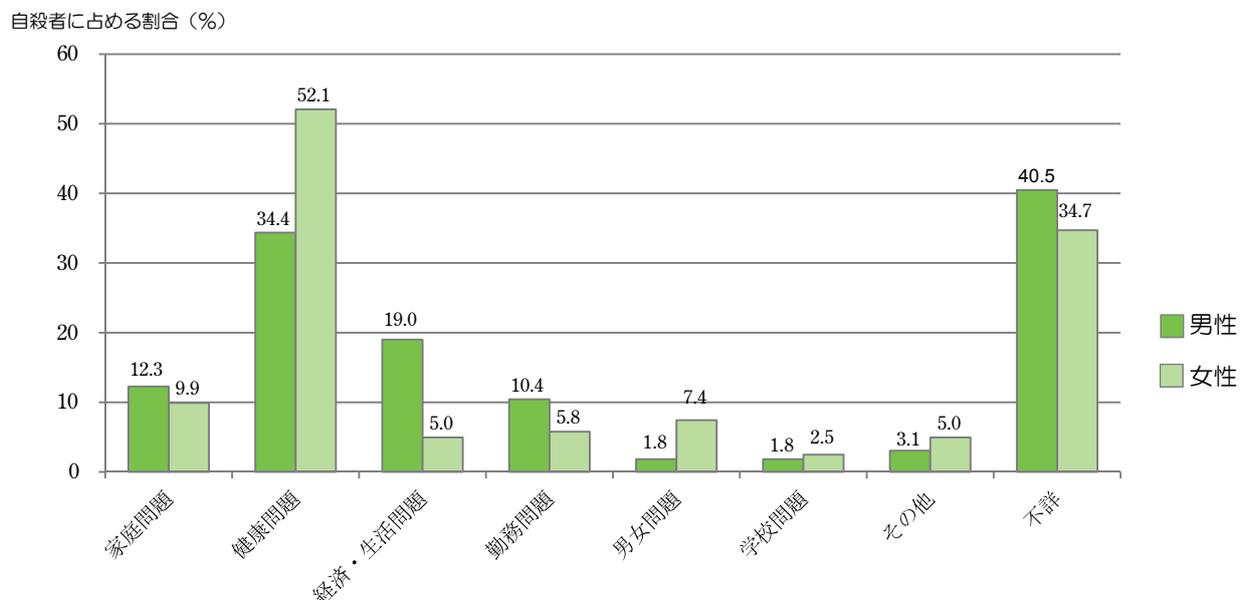
有職者	無職者
25.0% (22人)	75.0% (66人)

【資料】警察庁「自殺統計」

## (8) 自殺の原因・動機の状況

自殺の原因・動機は、「不詳」を除くと男女共に「健康問題」が最も高くなっています。次いで、男性は「経済・生活問題」、「家庭問題」、女性は「家庭問題」、「男女問題」の順となっています。

【図10】自殺の原因・動機の状況（目黒区／5年間の累計）



\*遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を3つまで計上可能として算出。

【資料】警察庁「自殺統計」

### \*\*\* 目黒区の自殺の状況（まとめ） \*\*\*

- ◆ 本区における自殺死亡率は、全国、東京都と比べ低い傾向にありますが、自殺者は毎年40人前後います。
- ◆ 自殺者数の推移を性別にみると、男性が女性よりも多くなっています。
- ◆ 自殺者の年齢構成をみると、20代から40代の働き盛り世代で高くなっています。
- ◆ 自殺者のうち、2割弱の人は自殺未遂歴があります。
- ◆ 自殺者の生活状況をみると、男女ともに約6割は同居人がおり、男性の約半分は有職者で、女性は無職者が有職者の3倍となっています。
- ◆ 自殺の原因・動機については、「不詳」を除くと男女共に「健康問題」が最も高くなっています。